

地域計画

策定年月日	令和7年3月12日
更新年月日	(第 回)
目標年度	令和11年度
市町村名 (市町村コード)	いわき市 204
地域名 (地域内農業集落名)	狐塚地区 (狐塚)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	53 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	43 ha
② 田の面積	51 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	3 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	— ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	— ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	— ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	— ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

【現状】

- ・資源保全会を中心に水路や農道の維持管理を行っており、地域全体で営農環境を整備している。
- ・他の地域に比べ、地域内に担い手が多く、担い手に対する集積も進んでいる。

【課題】

- ・水量が不足しており、その影響で田植えの時期が遅くなっている。
- ・農地が集積集約化できていない場所は、集積集約化できている場所に比べて作業効率が悪い状況である。
- ・基盤整備事業の要件である高収益作物の導入について、検討を続けているが、具体的な作物が決まらない状況である。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

- ・基盤整備事業に取り組むことで、農地を担い手に集積集約化でき、農作業の効率化や生産性の向上を図っていく。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
・基盤整備事業の実施を見据えて、一定地区を定め、担い手がどのエリアの農地を担うかを検討していく。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	68	%	将来の目標とする集積率
			80 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
・中間管理事業役員を中心に集団化、集約化を進めていく。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組
・担い手に対する集積、集約化を基本とするが、集積、集約化が難しい農地については地権者が耕作する。
(2)農地中間管理機構の活用方法
・中間管理事業役員を中心に農地中間管理機構を活用した農地集積を行っており、目標である集積率80%の達成を目指している。
(3)基盤整備事業への取組
・中間管理事業役員や担い手を中心に、基盤整備事業の実施に向け関係機関と協議を重ねている。今後は、申請要件を満たしているか確認し、早期の申請を目指す。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組
・農業の面白さを伝えるため、担い手が小学校で田植え体験の指導を行っている。新たな担い手が生まれるきっかけ作りとして、今後も活動を継続していく。 ・地域に女性農業者がおり、農業機械を自ら操作するなど、精力的に活動している。今後、地域における女性農業者の確保・育成に取組んでいく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携	☒ ⑩その他

【選択した上記の取組内容】

- ①鳥獣被害対策として電気柵等の設置や農道の草刈りを継続していく。
⑦資源保全会を中心に水路の維持管理や、水路や農道の草刈りなど継続していく。
⑩担い手による小学生を対象とした、田植え体験の指導を継続していく。

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 11 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	A氏	水稻・野菜	23.4 ha	ha	水稻・野菜	23.4 ha	ha	A氏	
認農	B氏	水稻・野菜	5.8 ha	ha	水稻・野菜	5.8 ha	ha	B氏	
認農	C氏	水稻・野菜	3.1 ha	ha	水稻・野菜	3.1 ha	ha	C氏	
認農	D氏	水稻	2.6 ha	ha	水稻	2.6 ha	ha	D氏	
認農	E氏	水稻・野菜	1.1 ha	ha	水稻・野菜	1.1 ha	ha	E氏	
計	5経営体		36 ha	0 ha		36 ha	0 ha		

- 注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
- 2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
- 3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
- 4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
- 5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。

注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。

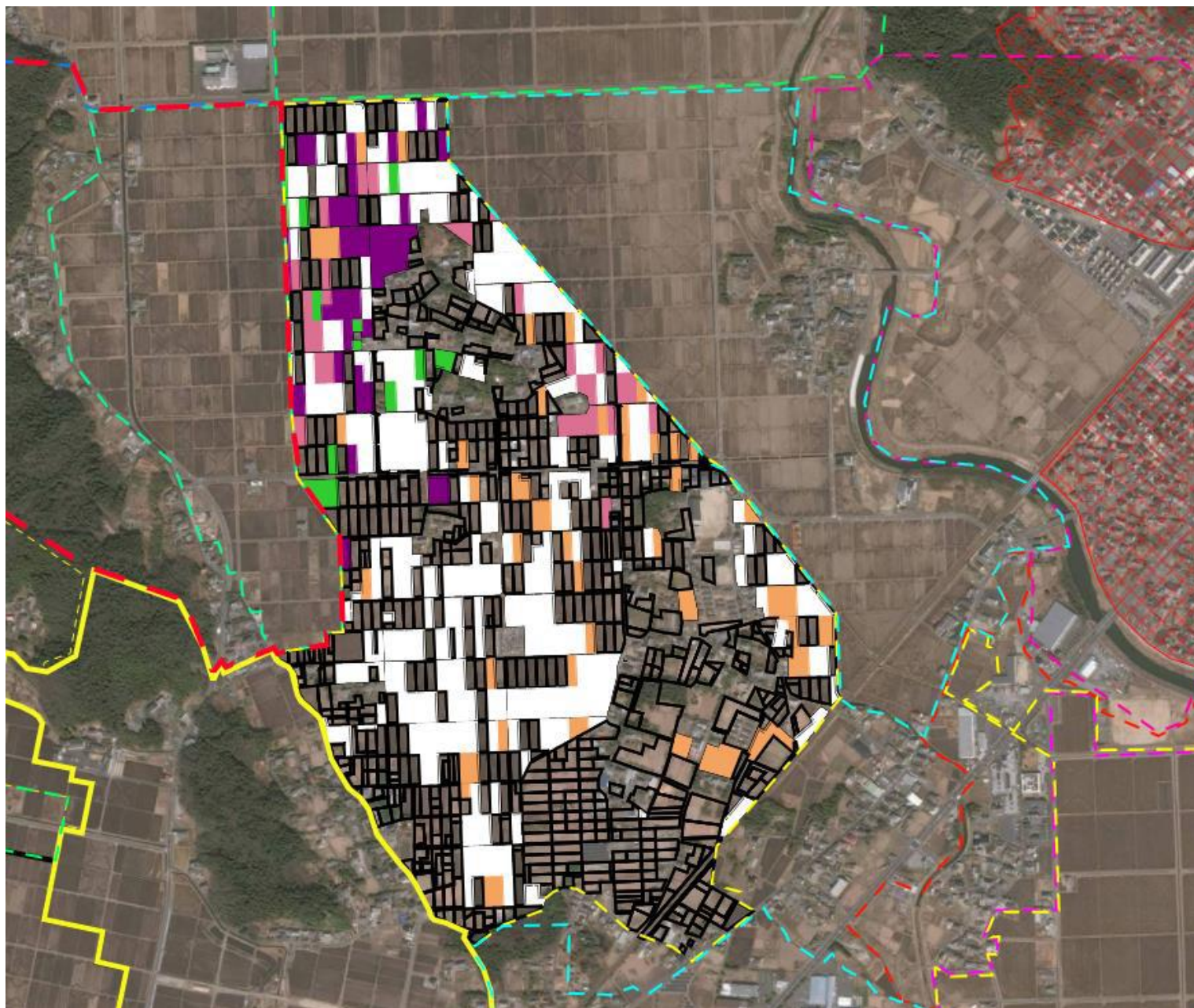
注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有するに当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。



目標地図 (狐塚地区)

耕作者

- D氏
- E氏
- C氏
- A氏
- B氏